

2015（平成27）年度

# 地域連携センター一年報

津市立 三重短期大学

## 目 次

### 地域連携センター事業を振り返って

I	平成27年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1	生涯学習機会の提供		
(1)	オープンカレッジ	・・・	2
(2)	地域連携講座	・・・	8
(3)	みえアカデミックセミナー2015	・・・	9
(4)	出前講座	・・・	9
(5)	講座開催一覧	・・・	13
(6)	科目等履修生制度	・・・	15
2	高等学校等との連携		
(1)	高大連携校との高大連携	・・・	16
(2)	一身田中学校図書館ボランティア活動	・・・	17
3	産学官連携の推進		
(1)	株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携	・・・	19
(2)	三重短期大学シーズ集「みえたんの種」の活用	・・・	22
4	市政との連携		
(1)	政策研究・研修	・・・	24
(2)	市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	29
(3)	審議会、委員会委員への参画	・・・	31
5	地域の大学との連携		
(1)	三重大学生物資源学部との連携	・・・	36
(2)	三重大学教育学部消費生活科学コースとの連携	・・・	36
6	学生ボランティア活動、地域連携講義の促進による教育の充実		
(1)	地域連携サポーター制度	・・・	38
(2)	津市消防団学生機能別消防団員	・・・	39
(3)	三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	39
(4)	一身田商工振興会との連携	・・・	40
(5)	エディブルフラワースイーツレシピづくり大会	・・・	40
(6)	美化デー	・・・	41
II	資料		
1	施設開放	・・・	42
2	三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	44
3	平成26年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	48

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げて、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講している他、「出前講座」も行っている。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月に、毎月1回、土曜日に2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、学外から講師を招き、本学の教員がコーディネーターとなって、地域の身近な話題を市民の方に専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年に2回開催している。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008年3月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高校と、同6月に三重県立相可高校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高校、三重県立久居高校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は5校となっている。一方、株式会社三重銀総研から資金を得て、三重銀総研と本学の共催で、学生を対象とした「小論文コンクール」を2007年から毎年開催している。学生からの応募数が増加してきており、学生の間に定着してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、2016年度には、三重県内の13高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」が設立され、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの事業は年々拡大してきているが、それを持続可能なものにするには事業を支える組織の強化が不可欠である。今後は、この点への取り組みが課題となるように思われる。

## I 平成27年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、平成27年度は次のような取組を進めた。

### 三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008（平成20）年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を立上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

#### (1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

#### (2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

#### (3) 産学官連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

#### (4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

#### (5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

#### (6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

## 1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

### (1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

月1回2講義を5か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

#### ア 野菜をしっかり食べて健康に！

- ① 開催日時 平成27年7月4日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 野菜は微量元素であるビタミン類や食物繊維の供給源になっており、人間の健康的な食生活の為に重要な食材ですが、日本人の摂取量は多くないのが現状です。本講座では、野菜の栄養や食べ方についてお話しし、食生活に野菜を取り入れるコツを紹介しました。
- ④ 参加者数 46名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 阿部 稚里



#### イ ボランティアと民事責任

- ① 開催日時 平成27年7月4日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 35番教室

- ③ 概 要 近年震災等による被害者を手助けしようとボランティア活動が盛んに行われるようになり、その活動はマスコミ等を通し注目を集めています。しかし、ボランティアが活動中に自らのミスで被災者を傷つけたあるいは被災者の物を壊した場合、無償で行っているボランティアに民事上の責任が生じるのか否か疑問があるかと思えます。本講座では、ボランティアに関する法的な問題点について事件を通し考察しました。
- ④ 参加者数 42名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 富田 仁



#### ウ おいしさの科学

- ① 開催日時 平成27年8月1日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会 場 35番教室
- ③ 概 要 人はみな、おいしい食べ物が大好きです。おいしいものを食べると思わず笑顔になったり、元気が出たりします。では「おいしさ」とは、一体何なのでしょう？健康のために、より良く食事を選ぶことが大事ですが、好き嫌いはどのように決まってくるのでしょうか。そういった食の好みに関する最新の脳科学的知見を紹介しました。
- ④ 参加者数 48名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 助教 米田 武志







## カ 女性と税金・年金

- ① 開催日時 平成27年9月5日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 女性の就業を妨げるものとして「103万円の壁」「130万円の壁」があるといわれます。所得税の見直しのなかで、配偶者控除のあり方が検討されており、また短時間労働者への保険適用拡大など年金制度の改正も行われています。この講座では、配偶者控除と第3号被保険者制度に焦点を当てて、女性と税金・年金の問題を考えました。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 雨宮 照雄



## キ 身近な企業の決算書を読んでみよう

- ① 開催日時 平成27年10月3日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 この講義では、身近な企業の決算書を使用して、決算書の読み方を解説しました。企業の作成する決算書には、主に貸借対照表や損益計算書やキャッシュフロー計算書があります。それぞれの決算書は、会計学の基礎知識がなければなかなか読むことが難しいので



すが、ちょっとした決算書を読むポイントが理解できると、決算書が読めるようになります。気になる企業の決算書を読みながら理解を深めました。

- ④ 参加者数 46名
- ⑤ 担当教員 法経科 准教授 田中 里美



#### ク 戦前・戦中の女性雑誌と「婦道」

- ① 開催日時 平成27年10月3日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 戦前・戦中の女性雑誌には「婦道」ということばがあふれました。

しかし、このことばを喧伝したのはむしろ男性でした。昭和前期の雑誌文化が時代とともに変貌するすがたを辿りながら、当時の社会や出版社の意図、戦前・戦中の「婦道」ブームを紹介し、このことばの持つ意味を考えました。

- ④ 参加者数 44名
- ⑤ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子



#### ケ ユニバーサルデザインのまちづくりとは

- ① 開催日時 平成27年11月7日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 障害を持った、ケガをした、齢を重ねた、子どもが生まれた…等、生きていると様々な体や環境の変化が訪れます。そして、その変化は生活していく上で時に大変な不便さをもたらします。「住みやすいまち」にはどのような要素が必要なのか、公共交通のありかたを中心に「まちづくり」の観点から考えました。
- ④ 参加者数 37名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織



#### コ 集まって暮らす住まい

- ① 開催日時 平成27年11月7日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 35番教室
- ③ 概要 少子高齢化や近隣関係の希薄化が進むなか、介護や子育て、災害時の不安などから他者とのつながりを求めるニーズが高まっており、集まって住むことの価値が見直されています。この講座では、集まって暮らす住まいの事例を交えながら、集まって住むことの意義や住まいの作り方について考えていきました。
- ④ 参加者数 41名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 教授 木下 誠一



## (2) 地域連携講座

### ア 3. 1 1 大震災から読み解く公務労働と自治体の力

- ① 開催日時 平成27年7月18日(土) 午後1時30分～午後4時
- ② 会場 35番教室
- ③ 内容 東日本大震災が起き、被災地岩手県の自治体職員はどのような状況に置かれ、どのような行動を取り、市民とともに歩んできたのでしょうか。自治体職員の証言から、市民の命を守る公務労働のあり方と自治体の力の底上げを図るキーワードを探りました。
- ④ 参加者数 51名
- ⑤ 講師 晴山 一穂(専修大学法科大学院教授)  
小笠原 純一(岩手県大槌町職員)
- ⑥ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝



### イ 三井と伊勢商人

- ① 開催日時 平成27年8月22日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 35番教室
- ③ 内容 天下の豪商三井家は呉服店と両替店で江戸期の商権を制覇し、それぞれ現在の三越伊勢丹や三井住友銀行につながる三井グループの中核となっています。三井家は本家が京都に在住し、菩提所も京都にあることから江戸店持京商人であります。家祖三井高利は松坂出身の伊勢国の人であり、三井の分家である松坂家や鳥居坂家は、明治初年まで松坂に在住していました。

他方、松坂の長谷川家や長井家、津の川喜田家などは本家を松坂や津に置く江戸店持伊勢商人であり、木綿太物を商う彼らや暖簾分けした別家は「伊勢屋稲荷に犬の糞」と呼ばれたように、江戸の商権を制覇していったのです。

今回の連携講座では、近世三井家経営や長谷川家・長井家の経営を研究してこられた賀川隆行先生が、三井と伊勢商人との比較を通じて、両者の共通点や差異性について講義されました。

- ④ 参加者数 70名
- ⑤ 講師 賀川 隆行（三井文庫嘱託【前三井文庫主任研究員】）
- ⑥ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一



### (3) みえアカデミックセミナー2015 ～知のひろがりそれは希望への一歩～

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。（※担当者会議資料（三重県生涯学習センター作成）等から）

- ① 開催日時 平成27年8月5日（水）午後1時30分～午後3時00分
- ② 会場 三重県文化会館 レセプションルーム
- ③ 内容 講演 演題 日本の賃金を考える
- ④ 概要 賃金。金額は大いに興味のあるところですが、賃金そのものを考えたことのある方は少ないのではないのでしょうか？

本セミナーでは、賃金の形態をわかりやすく整理し、賃金の見方を紹介しました。そして、日本の賃金がかかえる問題とのぞましい賃金のあり方について考えました。

- ⑤ 参加者数 45名
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 杉山 直

### (4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の平成27年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

#### ア 文学に描かれた私たちの町

- ① 開催日時 平成27年4月10日（金）午後2時～午後4時
- ② 会場 橋北公民館
- ③ 参加者数 70名
- ④ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

#### イ 伊勢商人の歴史

- ① 開催日時 平成27年4月18日（土）午後7時30分～午後8時30分
- ② 会場 ホテルザグランコート津西
- ③ 参加者数 28名
- ④ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一

#### ウ 「健康食品」を考える

- ① 開催日時 平成27年5月13日（水）午前10時～午前11時30分
- ② 会場 橋南公民館
- ③ 参加者数 54名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 伊藤 貴美子

#### エ 「憲法」ってどんな法？

- ① 開催日時 平成27年5月26日（火）午後3時30分～午後4時30分
- ② 会場 多気町民文化会館
- ③ 参加者数 61名
- ④ 担当教員 法経科 教授 三宅 裕一郎

#### オ 時代小説は庶民をどう描いているか

- ① 開催日時 平成27年6月24日（水）午前10時～午後11時30分
- ② 会場 四日市市楠町五味塚 2042-1
- ③ 参加者数 35名
- ④ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

#### カ 少年非行について

- ① 開催日時 平成27年7月12日（日）午後5時30分～午後6時20分
- ② 会場 三重県総合文化センターフレンテみえ
- ③ 参加者数 61名

- ④ 担当教員 法経科 教授 楠本 孝

**キ 東海大一揆の記憶**

- ① 開催日時 平成27年10月9日(金) 午後2時～午後4時  
② 会場 橋北公民館  
③ 参加者数 60名  
④ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一

**ク 男女共存社会のすすめ**

- ① 開催日時 平成27年11月13日(金) 午後7時25分～午後8時30分  
② 会場 名張高等学校  
③ 参加者数 37名  
④ 担当教員 生活科学科 教授 東福寺 一郎

**ケ 三重県の食状況について**

- ① 開催日時 平成27年12月10日(木) 午前9時30分～午前11時30分  
② 会場 津市勤労者福祉センター(サンワーク津)  
③ 参加者数 51名  
④ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣

**コ 心理学ミニ実験**

- ① 開催日時 平成27年12月12日(土) 午後1時30分～午後2時30分  
② 会場 津市勤労者福祉センター(サンワーク津)  
③ 参加者数 55名  
④ 担当教員 生活科学科 教授 東福寺 一郎

**サ 障害者差別解消法について考える～活用の方法とこれからの展望～**

- ① 開催日時 平成28年1月20日(水) 午前10時30分～午前12時  
② 会場 県立稲葉特別支援学校  
③ 参加者数 15名  
④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

**シ 糖尿病と食事と運動の話し**

- ① 開催日時 平成28年2月21日(日) 午後1時15分～午後2時15分  
② 会場 津市ふれあい会館  
③ 参加者数 80名  
④ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広

#### ス 健康づくりのための家庭料理を学ぼう

- ① 開催日時 平成28年2月23日(火) 午前9時30分～午前11時
- ② 会場 南が丘会館
- ③ 参加者数 31名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 飯田 津喜美

#### セ 胎児をめぐる生命倫理

- ① 開催日時 平成28年2月22日(月) 午後3時45分～午後4時45分
- ② 会場 青山高等学校
- ③ 参加者数 10名
- ④ 担当教員 法経科 教授 茂木 陽一

#### ソ おいしさの科学

- ① 開催日時 平成28年2月23日(火) 午後3時45分～午後4時45分
- ② 会場 青山高等学校
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 米田 武志

#### タ 生物多様性を考える

- ① 開催日時 平成28年2月24日(水) 午後3時45分～午後4時45分
- ② 会場 青山高等学校
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 南 有哲

#### ナ 文学に描かれた私たちの町

- ① 開催日時 平成28年2月25日(木) 午後3時45分～午後4時45分
- ② 会場 青山高等学校
- ③ 参加者数 17名
- ④ 担当教員 法経科 教授 竹添 敦子

#### ハ 食べ方の科学・おいしさの科学

- ① 開催日時 平成28年3月17日(木) 午前10時15分～午前12時
- ② 会場 三重県総合文化センター
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教授 米田 武志

#### (4) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	野菜をしっかり食べて健康に!	7月4日(土)	35番教室	46
	ボランティアと民事責任	7月4日(土)	35番教室	42
	おいしさの科学	8月1日(土)	35番教室	48
	健康食品を正しく理解しましょう	8月1日(土)	35番教室	47
	「平成の大合併」のその後	9月5日(土)	35番教室	48
	女性と税金・年金	9月5日(土)	35番教室	49
	身近な企業の決算書を読んでみよう	10月3日(土)	35番教室	46
	戦前・戦中の女性雑誌と「婦道」	10月3日(土)	35番教室	44
	ユニバーサルデザインのまちづくりとは	11月7日(土)	35番教室	37
	集まってくらす住まい	11月7日(土)	35番教室	41
地域連携講座	3.11大震災から読み解く公務労働と自治体の力	7月18日(土)	35番教室	51
	三井と伊勢商品	8月22日(土)	35番教室	70
みえアカデミックセミナー	日本の賃金を考える	8月5日(水)	三重県文化会館レセプションルーム	73
出前講座 (高大連携 事業を除く)	文学に描かれた私たちの町	4月10日(金)	橋北公民館	70
	伊勢商人の歴史	4月18日(土)	ホテルザグランコート津西	28
	「健康食品」を考える	5月13日(水)	橋南公民館	54
	「憲法」ってどんな法?	5月26日(火)	多気町民文化会館	61
	時代小説は庶民をどう描いているか	6月24日(水)	四日市市楠町五味塚 2042-1	35



	少年非行について	7月12日(日)	三重県総合文化センターフレンテみえ	61
	東海大一揆の記憶	10月9日(金)	橋北公民館	60
	男女共存社会のすすめ	11月13日(金)	名張高等学校	37
	三重県の食状況について	12月10日(木)	津市勤労者福祉センター(サン・ワーク津)	51
	心理学ミニ実験	12月12日(土)	津市勤労者福祉センター(サン・ワーク津)	55
	障害者差別解消法について考える～活用の方法とこれからの展望～	1月20日(水)	県立稲葉特別支援学校	15
	糖尿病と食事と運動の話	2月21日(日)	津市ふれあい会館	80
	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	2月23日(火)	南が丘会館	31
	胎児をめぐる生命倫理	2月22日(月)	青山高等学校	10
	おいしさの科学	2月23日(火)	青山高等学校	40
	生物多様性を考える	2月24日(水)	青山高等学校	25
	文学に描かれた私たちの町	2月25日(木)	青山高等学校	17
	食べ方の科学・おいしさの科学	3月17日(木)	三重県総合文化センター	30
出前講座 (高大連携 事業)	ゆでたまごと生たまごの消化性の違い	10月9日	相可高等学校	80
	フェアトレードの挑戦	2月17日	久居高高等学校	9

## (6) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成 8 年度より実施している。

満 18 歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と 1 単位当たりの費用が必要となる。

平成 27 年度の科目等履修生は、前後期あわせて 15 名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語 I や英会話などの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く 34 科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

### (前 期)

科 目	単位	人数
発達心理学	2	1
社会心理学	2	1
家族関係学	2	1
カウンセリング論	2	1
人間関係論	2	1
児童福祉論	2	1
民法 I	4	1
刑法	4	2
簿記原理	4	2
社会思想史	2	1
社会福祉論	2	1
自治体行政特論	2	1

### (後 期)

科 目	単位	人数
経済学史	2	1
政治思想史	2	1
地方政治論	4	1
地域史	2	1
国際法	4	1
労働法	4	1
差別と人権	2	1
統計学	2	1
情報と社会	4	1
マーケティング論	4	2
美学	2	1
環境政策論	2	1
労働法	4	2
経済政策	4	2
刑事政策	2	1
国際関係論	2	1

### (通 年)

科 目	単位	人数
英語 I	2	3
独語 I	2	1
英会話	2	1
英語講読	2	2
総合英語	2	1
仏語 II	2	1

## 2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、連携協定を締結している、三重県立亀山高等学校、相可高等学校、津商業高等学校、久居高等学校及びみえ夢学園高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高等学校を対象とした連携以外にも、本学附属図書館による市内の中学校への図書指等業を通じた連携にも取組んでいる。

### (1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。本学見学会では大学の概要説明、講義体験、施設見学、また先輩学生との意見交換などを行った。

#### ア 相可高等学校との出前講座（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 平成27年10月9日（金）午前10時40分～午前12時30分  
午後1時40分～午後3時30分
- ② 講 師 生活科学科 教授 山田 徳広
- ③ 内 容 ゆでたまごと生たまごの消化性の違い
- ④ 対 象 相可高等学校1・2年生80名



#### イ 相可高等学校との出前講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 平成27年12月18日（金）午前8時50分～午前12時
- ② 講 師 相可高校 食物調理科 園部かしこ教諭
- ③ 内 容 クリスマス用ロールケーキの作り方
- ④ 対 象 三重短大生活科学科食物栄養学専攻1年生 46名



#### ウ 久居高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成27年12月21日（月）午後2時20分～午後4時30分
- ② 対 象 生徒1名、進路指導教員1名

#### エ 久居高等学校への出前講座

- ① 日 時 平成28年2月17日（水）午後1時30分～午後3時
- ② 講 師 法経科 教授 石原 洋介
- ③ 内 容 フェアトレードの挑戦
- ④ 対 象 同校2年生9名

#### オ みえ夢学園高等学校の三重短期大学見学会

- ① 日 時 平成27年8月25日（火）午後2時00分～午後3時30分
- ② 対 象 生徒5名、保護者4名、進路指導教員3名

#### カ みえ夢学園高等学校訪問（授業解放）

- ① 日 時 平成27年9月15日（火）午前10時40分～午前12時10分
- ② 内 容 介護福祉基礎（2）
- ③ 人 員 楠本地域連携センター長、北村生活科学科准教授、事務担当

### （2）一身田中学校図書館ボランティア活動

附属図書館は、平成17年10月から、一身田中学校の要請もあって、附属図書館司書と図書館ボランティアの有志学生により、書架整理、館内ディスプレイ、本の装備、おすすめ本の紹介等の図書館支援を行っている。

その他、市内小・中学校図書館担当教諭等を集め、図書館連携講座を開催している。

（主な活動内容）

- 4月 ・クラブ体験を通じた図書館ボランティアの勧誘活動等
- 5月 ・第1回ボランティア会議
  - ・一身田中学校への訪問や活動者へのミーティングを通じた活動準備

- ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：木・木・金曜日(9名)
- 6月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：火・水・木曜日(13名)
- 7月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・火・水・金曜日(10名)
- 8月 ・第1回津市子ども読書活動推進会議 出席
- ・社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」[児童・生徒向け体験コーナー]に参加
- 8月22日(土) 午後1時～午後4時 内容：ふしぎレストランへようこそ!
- ・図書館ステップアップ講座を開催
- 8月24日(月) 午前10時00分～11時30分まで
- 内容：館内ディスプレイ作り(市内小・中学校図書館担当教諭、PTA・ボランティア等が参加)
- 9月 ・第2回ボランティア会議
- ・部長・新部長会議
- 10月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：火・木曜日(6名)
- ・部長・新部長会議
- 11月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・火・水曜日(10名)
- 12月 ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・火曜日(7名)
- 1月 ・第3回ボランティア会議
- ・一身田中学校でのボランティア活動 活動日：月・火曜日(3名)



(社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」児童・生徒向け体験コーナーの様子)

### 3 産学官連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学官連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文コンクールを引き続き開催したほか、三重銀総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

#### (1) 株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

##### ア 三重短期大学・三重銀総研主催小論文コンクール

株式会社三重銀行、株式会社三重銀総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文コンクールを実施した。

###### ① 趣旨

三重短期大学と三重銀総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文コンクールを実施した。

###### ② テーマ

『「地方創生」～わたしが考える地域の活性化～』

###### ③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

###### ④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

###### ⑤ 募集期間

平成27年6月29日～平成27年10月2日

###### ⑥ 選考委員

委員長 三重短期大学 学長 東福寺 一郎  
副委員長 (株)三重銀総研 代表取締役副社長 筒井 真  
委員 三重短期大学 法経科教授 茂木 陽一  
委員 三重短期大学 生活科学科教授 山田 徳広  
委員 (株)三重銀総研調査部 副部長 別府 孝文

###### ⑦ 応募作品（タイトル名）

- ・ 三重県の伝統食材を用いた地方創生を考えるーシロミトリ豆の普及活動からー
- ・ 地方商店街の現状と対策 大門商店街と三条会商店街・出町商店街を比較して
- ・ インフラ整備による三重県南部の地域振興

- ・地域で子どもの貧困の連鎖を止める
- ・お雑煮で三重県の活性化
- ・伊賀鉄道と地域活性化について
- ・地方野菜のブランド化戦略について
- ・官民連携による地域の活性化について
- ・地方創生～わたしが考える地域の活性化～
- ・「健康で文化的な」暮らしから地域の活性化へ
- ・女性の活躍推進について
- ・～わたしが考える地域活性化～
- ・「都市と地方の経済格差をなくすために」
- ・エネルギー問題について
- ・わたしたちのまち
- ・地域の文化から考える「地方創生」
- ・農業による地方創生
- ・「地方創生について」
- ・母子世帯と子どもの貧困
- ・女性の社会進出とマイナンバー制度
- ・「おもてなしの心」
- ・社会的弱者について
- ・「男女の賃金格差」
- ・国際政治経済学とは
- ・教育制度の改革～地域が活性化するためには～
- ・男女賃金格差
- ・社会保障から見る地域の活性化
- ・若者の貧困対策と地方創生
- ・地域を生かす産業
- ・ふるさと納税で地域活性化
- ・少子・高齢化の年金問題の不安
- ・メタンハイドレートの資源利用による日本の可能性
- ・エネルギー問題－エネルギーの消費を減らすために－
- ・『牛乳を復活させよう！』
- ・私が考える社会保障と税の一体改革
- ・「道の駅」を利用した地域の活性化

(全 36 作品)



⑧ 選考結果

賞	氏名	タイトル	学科
最優秀賞	野澤 有紀 近藤 真利奈 杉谷 まち子 若林 幸	三重県の伝統食材を用いた 地方創生を考えるーシロミ トリ豆の普及活動からー	生活科学科 食物栄養学専攻 2年
学長賞	川村 優斗	地方商店街の現状と対策	法経科第2部 2年
優秀賞	川北 耕平	インフラ整備による三重県 南部の地域振興	法経科第2部 2年
	山本 晴香	地域で子どもの貧困の連鎖 を止める	法経科第2部 2年
	山吉 真鈴 宮田 こころ 勇宮 加苗	お雑煮で三重県の活性化	生活科学科 食物栄養学専攻 2年
佳作	上野 珠希	伊賀鉄道と地域活性化につ いて	法経科第1部 経商コース 2年
	岡 美有紀	地域野菜のブランド化戦略 について	法経科第1部 経商コース 2年
	新貝 なつ美	官民連携による地域の活性 化について	法経科第1部 経商コース 2年
	奥西 猛	地方創生～わたしが考える 地域の活性化～	生活科学科 食物栄養学専攻 1年

⑨ 表彰式 ※本学「大学祭」の中で

日時 平成27年11月14日(土) 午後4時～午後5時

場所 三重短期大学 体育館

表彰者 三重短期大学 学長 東福寺一郎

株式会社 三重銀総研 代表取締役副社長 筒井真

司会 株式会社 三重銀総研 研究員 長井翔吾

三重短期大学法経科 教授 楠本孝



(表彰式)



## イ 三重銀総研より講師を招いた講義

### ① 講義科目 企業論

(専修第二(経済・経営)分野 前期 火曜日9-10限目 受講者数38名)

### ② 講師 山川 敏

(株式会社三重銀総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント)

### ③ 講義のねらい

(株)三重銀総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

### ④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握
- ・ 同 (2)外部環境把握
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究
- ・ 起業家の成功要因を考える (3つの側面からの考察)
- ・ 自分研究 (自分の特長、やってみたいこと)
- ・ 経営理念の立て方 (基本理念と行動理念)
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り
- ・ ビジネスプランの作成 等

## (2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科楠本孝教授(地域連携センター長)の内容

## 楠本 孝 (くすもと たかし)

職名	法経科 教授
授業科目	刑法、刑事政策
キーワード	犯罪、非行、刑罰、保護処分、治安、社会復帰、社会的排除、社会統合
研究テーマ	刑法解釈方法論、差別表現の刑事規制、触法精神障害者問題

<p>研究テーマの 応用例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少年非行の分析と対策</li> <li>・ 精神障害者の触法行為と対策</li> <li>・ 外国人犯罪の分析と対策</li> <li>・ ヘイト・スピーチと対策</li> </ul>
<p>最近の研究業績</p>	<p>[著書] 『刑法解釈の方法と実践』 現代人文社 2003年</p> <p>[論文] 「ドイツにおけるヘイト・スピーチに対する刑事規制」法と民主主義 485号 2014年／「集団侮辱罪と民衆煽動罪」龍谷大学矯正保護総合センター研究年報 2号 2012年／「裁判員制度のもとでの死刑」日本の科学者 513号 2010年／「外国人登録制度の崩壊と新たな在留管理制度への再編」法と民主主義 441号 2009年／「裁判員制度の下での精神障害者」三重法経 135号 2009年／「外国籍の子どもの就学義務化をめぐる法的諸問題」日本の科学者 488号 2008年／「自治体の外国人統合政策」三重法経 129号 2007年／『再犯予測からリスクマネジメントへ』で問題は解決するのか?」三重法経 124号 2004年／「保安処分論議の今日的総括」法律時報 74巻2号 2002年</p> <p>[その他] 「第2回 津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 15号 2010年／「津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 14号 2009年／「津市における外国人児童・生徒の就学状況調査報告書」2008年3月</p>
<p>最近の社会的活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2007年 津市青少年問題協議会委員（現在に至る）</li> </ul>
<p>メッセージ</p>	<p>犯罪の原因は一様ではありませんが、社会的に排除され、社会参加の機会を奪われている人々が犯罪や非行に至りやすいということは否定できません。従って、そうした人々を社会に統合する施策こそが犯罪・非行対策上重要である、という観点から研究を進めています。</p>

## 4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

### (1) 政策研究・研修

#### ① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりるとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

#### ② 研修テーマ、指導教員及び研修生

##### テーマ1

公共施設更新問題に応じた今後の公共施設のあり方及び再配置に関する調査研究

担当教員：生活科学科 准教授 小野寺一成

生活科学科 教授 木下 誠一

法経科 教授 雨宮 照雄

NO	氏名	所属
1	堀内 宏樹	名張市総務部管財室室員
2	尼子 宗成	松阪市経営企画部公共施設マネジメント・市政改革担当主幹
3	川村 敏之	亀山市建設部建築開発室主査
4	酒井 亮	津市政策財務部財産管理課財産活用担当主幹
5	吉村 賢太郎	津市政策財務部財産管理課主事
6	矢野 祐二	津市市民部市民交流課主査
7	フォレスト幹子	津市教育委員会事務局教育研究支援課主査

テーマ2

都市基盤整備財源としての都市計画税の今後のあり方

担当教員：法経科 教授 雨宮 照雄

NO	氏名	所属
1	中山 勇司	亀山市財務部税務室主査
2	伊藤 麻巳子	津市政策財務部資産税課主査
3	池田 文晃	津市都市計画部都市政策課主事
4	牛場 隆	津市河芸総合支所地域振興課調整・総務担当主幹
5	宮田 裕幸	津市下水道局下水道建設課主査

③ 研修期間

平成27年7月1日から平成28年2月22日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

テーマ毎に分かれた研修生グループが、指導教員による指導の下、先進地視察やデータ解析等を行い、具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 研究・研修計画

<p>【テーマ1】 公共施設更新問題に応じた今後の公共施設のあり方及び再配置に関する調査研究</p> <p>担当教員 生活科学科 准教授 小野寺 一成 生活科学科 教授 木下 誠一 法経科 教授 雨宮 照雄</p>	
<p>テーマ解説</p>	<p>平成26年4月、総務省から地方公共団体に対して平成28年度までに公共施設等総合管理計画を策定する指針があった。この計画は10年以上を計画期間として、更新・統廃合・機能集約・再配置などを長期的な視点で計画的に行い、財政的な負担を軽減・平準化できるよう、今後の公共施設のあり方を考え、策定するよう求めている。</p> <p>公共施設等総合管理計画策定にあたっては、単純な施設廃止等で市民サービスの低下を招かないよう行政サービスの機能は維持したまま、施設総量の縮減を基本とし、「選択」と「集中」の考え方にに基づき、類似機能施設の統廃合や、機能の集約化・施設の複合化といった施設の再配置を行うこととしている。また、再配置で生まれ得るメリットを最大化できるように、必要などころに必要な投資を行い、住民が満足する公共施設となることを目標としている。</p> <p>計画策定に向け先進団体の事例調査等必要な調査研究を行うなど、公共施設のあり方や再配置計画策定に資する調査研究を行う。</p>
<p>研究計画等</p>	<p>①公共施設の現状調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各公共施設の種類別数と位置の把握</li> <li>・各施設の床面積、構造、耐用年限等の把握</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の大規模修繕履歴の把握</li> <li>・各施設別耐用年限表及び位置図作成</li> <li>・各公共施設利用状況等カルテの作成</li> <li>・現状維持管理・補修更新費の予測など</li> </ul> <p>②先進事例調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進団体事例調査、神奈川県秦野市、東京都府中市、埼玉県鶴ヶ島市など</li> </ul> <p>③公共施設の将来のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来都市構造の考え方整理（既存マスタープラン等の整理）</li> <li>・再配置の考え方（住民サービスのメリット含む）検討</li> <li>・再配置方針の検討</li> <li>・再配置計画の検討、再配置のモデル検討、</li> <li>・再配置計画に基づく維持管理・補修更新費シミュレーションの検討</li> </ul> <p>④計画推進に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再配置計画の実現に向けた課題の整理</li> <li>・長寿命化を含んだ建替え手法の検討</li> <li>・中長期的な経費の見込みやこれらの経費に充当可能な財源の見込み等</li> </ul>
備考	<p>当調査研究は、公共施設等総合管理計画策定に資する研究とする。</p> <p>よって、調査研究に使用するデータなどは、地方公共団体が所有する公共施設管理データ等を活用して行うものとする。</p>

〔テーマ2〕	
<h2>都市基盤整備財源としての都市計画税の今後のあり方</h2> <p style="text-align: right;">担当教員 法経科 教授 雨宮 照雄</p>	
テーマ解説	<p>都市計画税は、都市計画事業または土地区画整理事業に要する費用に充てるため、当該市町村の都市計画区域（原則として市街化区域）内に所在する土地及び家屋に対し、その価格を課税標準として課する市町村の目的税である。また、都市計画税は、任意税であり、税率についても制限税率しか法定されていない。このことの趣旨は、都市計画事業やその財源調達の実情は個々の市町村によって大きく異なることから、それぞれの市町村が自主的な判断において都市計画税のあり方を決定すべきであるとする考え方に基づいている。言い換えれば、都市計画税は、課税区域の設定や税率の設定において市町村が地域の実状に応じて決定できる分権時代にふさわしい税であるとともに、それをどのように設定するかについて、各市町村は住民に対して高度な説明責任を有している税というべきである。</p> <p>都市計画税は、課税団体の全国平均で見た場合、税収の6.1%（津市についてみればH25年度決算で5.4%）であり、都市基盤整備の財源として一定の規模を</p>

	<p>有している。他方、住民からは、①普通税、目的税、受益者負担金（下水道）との区別が不明確で、都市計画税の負担の根拠が曖昧である、②課税を市街化区域に限定することの是非、③都市計画事業または土地区画整理事業をその他の事業から明確かつ具体的に区別することの困難性などが繰り返し指摘されてきたし、租税法その他の学会においてもそのような都市計画税の問題性については議論されてきた。</p> <p>今後とも都市計画税を都市基盤整備の重要な財源と位置づけていくために必要な検討事項としては、次のものが考えられる。</p> <p>①特別会計や繰越金の基金管理など都市計画税の使途の管理  ②議会や住民に対する都市計画税の使途の明確化（情報公開）の具体的手法  ③都市計画の進展・変更にあわせた都市計画税（財源負担）の見直しの是非</p> <p>本政策研究・研修では、主に三重県市町の都市計画税の現状をふまえて、今後どのような見直しが必要か、その課題を整理する。</p>
研究計画等	<p>(1) 都市計画税の法的な位置づけの整理</p> <p>①導入、改正の背景 ②目的税としての位置づけ、特に受益者負担金との差異、③都市計画税の問題点、④都市計画税の見直しの議論</p> <p>(2) 都市計画税の現状（三重県市町への調査）</p> <p>①税率、課税対象、負担調整措置 ②税収 ③都市計画事業等への充当状況</p> <p>(3) 都市計画税のあり方の検討（三重県市町 財政担当・都市計画担当、議会へのヒアリング）</p> <p>①特別会計や基金など、都市計画税の使途管理の方法 ②議会や住民への情報提供のあり方 ③都市計画事業の今後の見通しと都市計画税（財源負担）の見直し ④議会や住民からの都市計画税についての意見</p> <p>(4) 先進自治体への視察（視察先は未定）：特に都市計画事業の一定の進展をふまえて、都市計画税を見直した自治体を考えている。</p>
備考	

## ⑥ 成果報告会

- ・日 時 平成28年2月22日（月）午後2時00分～午後3時30分
- ・場 所 三重短期大学管理棟 2階 演習室1
- ・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・主な参加者

政策財務部長、税務・財産管理担当理事(兼)特別滞納整理推進担当理事、財産管理担当参事(兼)県営住宅跡地等整備調整担当参事・財産管理課長、政策財務部税務担当参事(兼)特別滞納整理推進担当参事、資産税課長、市民部次長、市民交流課長、都市政策課都市計画・景観担当職員、学長、地域連携センター長、学生部長、事務局長ほか



(成果報告会の様子)

## (2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、平成27年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴や福祉施設や環境関係の施設見学なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 月曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 教授 雨宮照雄
- ③ 受講者数 59名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	4月13日(月)	開講オリエンテーション	法経科 教授 雨宮 照雄
2	4月20日(月)	津市の概要	法経科 教授 雨宮 照雄
3	4月30日(水)	地域包括ケアシステムの構築に向けて	健康福祉部高齢福祉・介護保険担当参事(兼)介護保険課長 南条 弥生
4	5月11日(月)	環境行政について	環境部新最終処分場建設推進担当参事(兼)新最終処分場建設推進課長 木村 重好 環境部環境施設担当参事(兼)環境施設課長 兼平 浩二
5	5月18日(月)	これからの都市づくり	都市計画部次長 伊藤 秀利
6	5月25日(月)	津市の企業誘致・工業振興について	商工観光部企業誘致担当参事(兼)工業振興担当参事・工業振興課長 西口 哲司
7	6月1日(月)	津市の教育について	教育委員会事務局学校教育課長 森 昌彦
8	6月8日(金)～ 11日(月)	津市議会傍聴	
9	6月15日(月)	津市関連施設見学	
10	6月22日(月)	津市総合計画について、ユニバーサルデザインのまちづくり	政策財務部政策課調整・政策担当主幹(兼)企画員 濱田 耕二 政策財務部政策課 政策担当主幹 梅本 和嗣



11	6月29日(月)	津市の文化ホールと文化振興	スポーツ文化振興部文化振興課長 脇田 久三
12	7月6日(月)	津市の農業振興	農林水産部農林水産政策担当参事(兼)農林水産政策課長 倉田 浩伸
13	7月13日(月)	合併後10年目を迎えて	津市長 前葉 泰幸
14	7月27日(月)	津市の財政状況を知る	財政課財政担当副主幹 柿内 宏介
15	8月3日(月)	学生成果の発表及び講評	法経科 教授 雨宮 照雄



(前葉市長による講義)

### (3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱先	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	杉山 直	名城大学 法学部	「経営学」非常勤講師	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 9 月 13 日
2	藤枝 律子	四日市市 総務部	四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
3	武田 誠一	学校法人	「保健医療サービス」非常勤講師	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
4	藤枝 律子	新潟福祉医療学園	三重県障害者介護給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
5	雨宮 照雄	日本こども福祉専門学校	平成 27 年度短期大学評価委員会 短期大学財務評価分科会主査	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
6	小野寺 一成	三重県健康福祉部	市福祉有償運送運営協議会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
7	長友 薫輝	公益財団法人	三重県障害者介護給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
8	長友 薫輝	大学基準協会	参議院厚生労働委員会参考人	平成 27 年 5 月 22 日
9	藤枝 律子	津市健康福祉部	三重県司法書士会綱紀調査委員予備委員	委嘱日から 2 年間
10	藤枝 律子	三重県健康福祉部	平成 27 年度桑名市職員研修講師	平成 27 年 7 月 8 日～ 平成 27 年 7 月 15 日
11	藤枝 律子	参議院厚生労働委員会	三重県収用委員会委員	平成 27 年 7 月 7 日～ 平成 30 年 7 月 6 日
12	東福寺 一郎	三重県司法書士会	平成 27 年度市民活動推進事業一般選考委員	委嘱日～ 平成 28 年 5 月 31 日
13	三宅 裕一郎	桑名市市長公室	名張市情報公開審査会委員 名張市個人情報保護審査会委員	平成 27 年 7 月 1 日～ 平成 29 年 6 月 30 日
14	三宅 裕一郎	三重県総務部	伊賀南部環境衛生組合情報公開審査会委員	平成 27 年 7 月 1 日～ 平成 29 年 6 月 30 日

			伊賀南部環境衛生組合個人情報保護審査会委員	
15	飯田 津喜美	津市市民部	三重県栄養士会理事	平成 27 年 5 月～ 平成 29 年 5 月
16	北村 香織	名張市	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員	平成 27 年 7 月 12 日～ 平成 29 年 7 月 11 日
17	阿部 稚里	市民部・総務部	スーパー食育スクール事業推進委員会委員	平成 27 年 6 月 11 日～ 平成 28 年 2 月 29 日
18	東福寺 一郎	伊賀南部	放送大学非常勤講師（心理学実験 2）	平成 27 年 10 月 24 日 平成 27 年 10 月 25 日
19	三宅 裕一郎	環境衛生組合	放送大学非常勤講師（ニュースからひもとく日本国憲法）	平成 27 年 11 月 7 日 平成 27 年 11 月 8 日
20	竹添 敦子	公益財団法人	放送大学非常勤講師（江戸下町風景を読む）	平成 27 年 12 月 5 日 平成 27 年 12 月 6 日
21	駒田 亜衣	三重県栄養士会	放送大学非常勤講師（健康寿命と食生活）	平成 27 年 11 月 7 日 平成 27 年 11 月 8 日
22	北村 香織	三重県健康福祉部	放送大学非常勤講師（歴史から学ぶ社会福祉）	平成 27 年 12 月 12 日 平成 27 年 12 月 13 日
23	長友 薫輝	久居農林高等学校	ウェルビーイングみえ 2 1 プラン第 4 期計画策定委員会委員	平成 27 年 8 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
24	長友 薫輝	放送大学学園	三重県身体障害者総合福祉センター及び三重県視覚障害者支援センター指定管理者選定委員会委員	承認日～ 平成 27 年 9 月 30 日
25	木下 誠一	放送大学学園	老人保健福祉施設整備事業審査会委員	平成 27 年 9 月 1 日～ 平成 28 年 8 月 31 日
26	長友 薫輝	放送大学学園	多気郡福祉有償運送等運営協議会委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
27	長友 薫輝	放送大学学園	（仮称）津市成年後見サポートセンター事業検討委員	委嘱日～ 平成 28 年 3 月 31 日
28	藤枝 律子	放送大学学園	「関係法規」非常勤講師	平成 27 年 10 月 5 日～ 平成 28 年 1 月 18 日
29	藤枝 律子	社会福祉法人	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会委員 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保	平成 27 年 10 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日

			護審査会委員	
30	藤枝 律子	三重県社会福祉協議会	鈴鹿市情報公開審査委員	平成 27 年 10 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日
31	東福寺 一郎	三重県健康福祉部	男女共同参画推進連携会議議員	平成 27 年 8 月 16 日～ 平成 29 年 8 月 15 日
32	駒田 亜衣	三重県健康福祉部	平成 27 年度津市食生活改善推進員 リーダー研修会講師	平成 27 年 9 月 4 日
33	駒田 亜衣	多気郡福祉有償運送等	津市内保育所給食担当職員研修会講師	平成 27 年 11 月 16 日 平成 27 年 11 月 17 日
34	中井 晴美	運営協議会事務局	市立伊勢総合病院給食業務受託者選考委員	平成 27 年 10 月 9 日～ 平成 28 年 2 月 29 日
35	木下 誠一	社会福祉法人	津市産業・スポーツセンター 指定管理者選定委員会委員	委嘱日～ 平成 27 年 11 月中旬
36	木下 誠一	津市社会福祉協議会	松阪市景観アドバイザー	平成 27 年 11 月 1 日～ 平成 29 年 10 月 31 日
37	駒田 亜衣	津看護専門学校	一身田印認定協議会委員	承認日～ 平成 28 年 3 月 31 日
38	富田 仁	鈴鹿亀山地区	鈴鹿市空家等対策協議会委員	承認日～ 平成 29 年 3 月 31 日
39	藤枝 律子	広域連合	三重県自動車廃物認定委員会委員	平成 27 年 12 月 1 日～ 平成 29 年 11 月 30 日
40	小野寺 一成	鈴鹿市総務部	三重県事業認定審議会委員	平成 27 年 12 月 25 日 ～ 平成 28 年 9 月 18 日
41	竹添 敦子	内閣府	津市津図書館文学講座講師	平成 28 年 1 月 23 日
42	田中 里美	男女共同参画局	松阪市行財政改革推進委員会委員	平成 27 年 12 月 18 日 ～ 平成 29 年 12 月 17 日
43	藤枝 律子	津市食生活	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	平成 28 年 1 月 15 日～ 平成 30 年 1 月 14 日
44	小野寺 一成	改善推進協議会	津市建築審査会委員	平成 28 年 1 月 1 日～ 平成 29 年 12 月 31 日

45	東福寺 一郎	津保育所施設長	桑名市男女共同参画審議会委員	平成 28 年 2 月 1 日～ 平成 30 年 1 月 31 日
46	藤枝 律子	連絡協議会	津市建築審査会委員	平成 28 年 1 月 1 日～ 平成 29 年 12 月 31 日
47	米田 武志	市立伊勢総合病院	平成 28 年度 「健康食品学」「食品設計開発学実習」非常勤講師	健康食品学（前期） 食品設計開発学実習（後期）
48	長友 薫輝	津市スポーツ文化振興部	三重県障害者自立支援協議会委員	平成 28 年 2 月 1 日～ 平成 30 年 1 月 31 日
49	雨宮 照雄	松阪市都市整備部	「暮らしに役立つ図書館講座」講師	平成 28 年 3 月 19 日
50	村井 美代子	一身田商工振興会	独立行政法人大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員	平成 28 年 2 月 15 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
51	米田 武志	鈴鹿市都市整備部	平成 28 年度「食品加工学C」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
52	北村 香織	三重県環境生活部	障害者差別解消法の施行にあたっての園・学校教職員及び教育委員会事務局職員に向けた研修会講師	平成 28 年 2 月 16 日～ 平成 28 年 2 月 26 日
53	石原 洋介	三重県県土整備部	「伊勢志摩サミット開催記念生涯学習講座」講師	平成 28 年 2 月 27 日 平成 28 年 3 月 5 日
54	杉山 直	津市津図書館	「経営学概論Ⅰ（前期）」 「経営学概論Ⅱ（後期）」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
55	杉山 直	松阪市経営企画課	「経営学」非常勤講師	平成 28 年 9 月 14 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
56	東福寺 一郎	鈴鹿市総務部	いなべ市男女共同参画推進委員会委員	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
57	富田 仁	津市都市計画部	「民法 1（前期）」、「民法 2（後期）」 非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
58	長友 薫輝	桑名市市民安全部	「社会福祉調査論」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 18 日
59	長友 薫輝	津市都市計画部	「地域福祉論」非常勤講師	平成 28 年 9 月 14 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
60	長友 薫輝	学校法人 冬木	三重県行政不服審査会委員	平成 28 年 4 月 1 日～

		学園		平成 31 年 3 月 31 日
61	藤枝 律子	三重県健康福祉部	三重県行政不服審査会委員	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日
62	駒田 亜衣	津市津図書館	「食とくらしの健康シンポジウム」 コーディネーター	平成 28 年 3 月 19 日
63	長友 薫輝	独立行政法人	「医療経済論 E」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 25 日
64	長友 薫輝	大学評価・学位授与機構	「社会保障論」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
65	長友 薫輝	京都光華女子大学	「医療経済論 E」非常勤講師	平成 28 年 9 月 16 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
66	長友 薫輝	津市教育委員会	「地域福祉論 I」「地域福祉論 II」 「保健医療政策論」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
67	藤枝 律子	津市教育委員会	鈴鹿市行政不服審査委員	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日
68	山田 徳広	愛知大学経営学部	「栄養学総論」非常勤講師	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 25 日

## 5 地域の大学との連携

三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生が参加したり、教育学部消費生活科学コースと本学食物栄養学専攻の学生が中心市街地の店舗を利用した連携事業などを実施したりした。

### (1) 三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行った。参加した学生は宿泊所に泊まり、三重大学の学生とも交流を深めた。

#### ア 農場コース【土は生きている】

② 月 日 平成27年8月26日(水)～28日(金)

② 内 容 三重大学生物資源学研究科との連携事業(開放授業)として同研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場等において、「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどを行った。

#### イ 演習林コース【森は生きている】

①月 日 平成27年9月10日(月)～12日(水)

②内 容 三重大学生物資源学部附帯施設演習林において、「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害調査、野生動物の夜被害の見学、森林環境調査などを行った。

### (2) 三重大学家政教育コースとの連携 三重短期大学と三重大学の連携による「街の駅だいまん(大門)」を利用した学生カフェ『Café HONO BUONO』(カフェ ほのぼーの)

①月 日 平成27年12月20日(土)

②会 場 津市大門大通り商店街 「街の駅だいまん(大門)」

③内 容 三重大学との大学間連携の一環として、三重大学教育学部と連携して、「街の駅だいまん(大門)」で1日限定の学生による『Café HONO BUONO』を出店した。

三重短期大学生活科学科食物栄養学専攻の学生8名と、三重大学教育学部家政教育コース(吉本敏子教授)の学生8名が協議を進め、本年度6回目の出店となった。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学消費生活科学コースでは、企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する実習、三重短期大学食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食べ物を提供する実習を行った。



(接客の様子)



(調理の様子)



(前葉津市長が来店)



(ランチセット)



## 6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に53名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は64名であった。

### (1) 地域連携サポーター

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は53名であった。

#### ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第1回）

- ① 日 時 平成27年5月9日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 50名

#### イ 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第2回）

- ① 日 時 平成27年10月24日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 39名



（一身田寺内町・環濠・本山境内清掃）

#### ウ 「学生」×「地域」カフェ

- ① 期 間 平成27年5月～平成28年3月 随時
- ② 内容・参加人数
  - ・対話（サロン）による協働の地域づくりフォーラム2015～SHIENのこころが育むオールピープルサロンIN三重～（6名）
  - ・飲酒運転0（ゼロ）をめざすキャンペーンの企画運営への参画について（3名）

- ・高齢化率70%の限界集落における地域活性化取組への協力（6名）
- ・地域資源を生かした環境教育事業（4名）
- ・「第8回伊勢型紙匠の里フェスタ」へのスタッフとしての支援活動（5名）
- ・食品表示等から考える「食の安全・安心」（1名）
- ・平成27年度みえの育児男子親子キャンプ（2名）
- ・子どもも大人もみんなで考え、みんなで支え合うためのまちづくりに向けた活動（3名）
- ・TGJ 津学生情報室（5名）
- ・公共施設更新問題に係る公共施設の集約・統合・再配置の検討（1名）

## （2） 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生22名が新たに任命され、津市夏期訓練などの訓練や津市消防本部が主催する防災啓発イベントに参加した。



（辞令交付式）



（夏期訓練）

## （3） 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約280名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験を行った。

また、今年度は市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

- ① 日 時 平成27年5月7日（木）午前10時～午後1時
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター（知識の広場）



(救急救命の実演)



(徒歩による避難訓練)

#### (4) 一身田商工振興会との連携

- ① 期 間 平成27年8月～平成28年1月
- ② 内 容 古くから寺内町として発展してきた一身田町の活性化を目的に、商工振興会の6店舗と三重短期大学、高田短期大学の学生とがコラボし、「一身田印」認定商品の開発を行った。  
毎年1月に行われる「お七夜」において、本学がコラボした2店舗から2商品が発売された。
- ③ 参加者数 食物栄養学専攻1年生 12名



(試食と販売も学生が担当)



(一身田印認定商品)

#### (5) エディブルフラワースイーツレシピづくり大会

- ① 日 時 平成27年7月25日(土) 午前10時～午後3時
- ② 内 容 三重大学及び榊フューチャー・ファーム・コミュニティ三重主催で朝津味(高野尾町)において行われた同大会に参加した。  
本学からは4作品を出品し、みずまんじゅうが絶品スイーツ賞を受賞した。
- ③ 参加者数 学生6名、教員1名



(みずまんじゅう)



(絶品スイーツ賞を受賞)

## (6) 美化デー

- ①日 時 平成27年10月29日(木) 午後1時～午後2時
- ②内 容 市が実施する市民清掃デーを時期に合わせ、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③参加数 学生・教職員28名

## Ⅱ 資料

### 1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

#### (1) 図書館

##### ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	20歳以上の津市在住・在勤・在学者

##### イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	閲覧者数
平成27年4月	5	0
5月	1	0
6月	0	2
7月	1	0
8月	7	1
9月	2	0
10月	6	0
11月	2	0
12月	0	1
平成28年1月	1	0
2月	1	1
3月	1	0
合計	27	5

(2) 体育施設（体育館、テニスコート）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00~21:00		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	9:00~18:00	1時間につき1,000円
		18:00~21:00	1時間につき1,500円
	テニスコ ート	9:00~18:00	1時間につき100円(一面につき)
		18:00~21:00	1時間につき150円(一面につき)
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者10人以上で構成された団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数	
		体育館	テニスコート
平成27年4月	4	0	0
5月	0	7	0
6月	0	7	0
7月	0	6	0
8月	0	3	0
9月	0	8	0
10月	1	4	0
11月	0	3	0
12月	0	6	0
平成28年1月	0	3	0
2月	0	5	0
3月	0	4	0
合計	5	56	0



## 2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

平成 27 年度は、次のような研究が行われた。

研究員名	研究テーマ	研究概要
杉山 直	三重県における物流労働の研究	四日市市には、イオンの物流センター「イオン中部 RDC(リージョナル・ディストリビューション・センター)」が業務を展開している。これは中部エリアの各店舗に商品を供給する在庫拠点としての役割を担うとともに、中部エリアから出荷される商品を全国各地へ輸送するための集荷拠点としての役割を担うものといわれる。しかしながら物流システムの「合理化」を伴ったイオン中部 RCD での労働は、そこで働く労働者に長時間・過密労働などの影響を与えている。本研究では、イオン中部 RCD を中心に物流労働の実態を明らかにし、企業の企業戦略が労働者に与える影響について明らかにしたい。
山川 和義	男女雇用機会均等法の現状と法的課題	男女雇用機会均等法が施行され 30 年が経過するが、いまだにセクシャルハラスメントや妊娠・出産、育児にかかわる不利益取扱いが生じ、雇用の場における平等が実現されているとはいえない。そこで、本研究では、男女雇用機会均等法上の紛争解決状況と同法にかかわる裁判例を整理・分析し、その法的課題を抽出し、その解決方法について検討する。
田中 里美	法人税の実質税負担率の分析	「税務統計からみた法人企業の実態」から資本金規模別の法人の実質税負担率の分析を行う。特に資本金規模の大きい企業ほど法人税の実質税負担率が低くなっている。この原因について調査および分析を行う。

駒田 亜衣	生活習慣改善への行動変容と特定保健指導のポイントに関する研究	三重県津市で実施された特定健診結果から、「積極的支援」「動機付け支援」に階層化された対象者の行動変容について調査する。第一に、実際に特定保健指導を受けた対象者の保健指導実施前と実施後で検査値等の改善程度を把握する。第二に、改善した対象者に対し、保健指導実施時に聞き取りした生活習慣問診を解析し、具体的にどのような生活習慣改善があったかを明らかにする。 この結果から、その後に実施される保健指導において重点的に指導するポイントや津市における保健指導の効果的な方策を得ることを目的とする。
雨宮 照雄	①地方公会計の活用 ②市町村合併の財政検証	①昨年、地方公会計の会計基準が統一され、自治体間の比較が可能になった。それをふまえて財政分析に地方公会計の情報をいかに活用するかを検討する。 ②平成 25 年度の決算統計を用いて、合併の財政検証を補完する。特に、合併算定替えの終了に伴う、交付税算定方法の変更の効果に焦点を当てる。
三宅 裕一郎	2014. 7. 1 閣議決定に伴う日本の安全保障法制の転換が日本の各セクターに及ぼす影響とアメリカ軍事戦略との関係	2014 年 7 月 1 日、第 2 次安倍内閣は、これまで憲法 9 条の下で禁じられるとされてきた集団的自衛権行使を含む幅広い軍事力行使を容認する閣議決定を行った。現在、政府与党内では、これに基づいて日本の安全保障法制の大規模な再編が進められている。その先には、いうまでもなく、これまで以上に日米安保体制に基づく日米軍事協力を円滑に進めることを可能にすることが目論まれている。 一方、これまで「対テロ戦争」を推し進めてきたアメリカは、それによる経済的な疲弊から戦略転換を余儀なくされ、自らはスリム化した軍事力による対テロ作戦を継続しながら同盟国に対しては大きな負担を求めてきている。このことは、日本の安全保障法制や安全保障政策に対して、これまで以上に大きな影響を与えることになるであろう。 本研究では、それらがもつインプリケーションを明らかにすると同時に、アメリカ国内での軍事に



		<p>対する立憲的統制並びに法的統制の可能性についても引き続き検討を行っていききたい。</p>
長友 薫輝	<p>皆保険体制による医療保障の現状と課題</p>	<p>2013年12月に成立したいわゆる「社会保障改革プログラム法」等により、社会保障の解体などが危惧されている。こうした状況下において、皆保険体制による医療保障はどのような影響を受ける可能性があるのか、またどのような医療保障が望ましいのかを地域医療調査、国民健康保険に関する調査を行う。</p>
楠本 孝	<p>ヘイト・スピーチ規制のあり方</p>	<p>ヘイトスピーチ規制の比較法研究・判例研究・学説の検討、及び大阪市における条例化の動きの検討</p>
茂木 陽一	<p>近代マビキ慣行についての比較研究</p>	<p>三重県における近代マビキ慣行を他府県の事例と比較することにより、その特質を明らかにする。これまでに、茨城県・島根県の事例を検討してきたが、今年度はそれに加えて岡山県・鳥取県を分析対象として取り上げていく。</p>
武田 誠一	<p>介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）実施に伴う地域課題の研究</p>	<p>介護保険法が改正され、平成27年度より介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）が各市町村で順次、実施されることになった。しかし、多くの自治体は国が認める猶予期間を最大限に活用し、平成29年4月の実施を目指すところが多い、この点からも明らかなように実施に向けては多くの課題が山積している、本研究では総合事業実施に向けた各地域の課題を分析検討していく。</p>

北村 香織	地域公共交通のあり方を考える ～福祉のまちづくり、ユニバーサルデザインのまちづくり政策を通して	地域公共交通のあり方を考える際には、都市計画をはじめとする工学的知見と、障がいを持つ人や高齢者等の生活に特に着目した社会福祉学的知見が必要であることに異論はないであろう。しかしながら、実際の計画や設計段階において、その両分野が実質的に協同して取り組んでいる例は少ない。また、用語の混乱も見られる為議論が困難であると考えられる。本研究では、「福祉のまちづくり」と「ユニバーサルデザインのまちづくり」という用語と政策の策定過程及び内容の整理を行う。交通関係者と社会福祉関係者が共通基盤を持ってまちづくりや地域公共交通のあり方の議論を行う足がかりとしたい。
金江 亮	資本財の量・種類が異なる国・地域・経済主体の最適成長経路	現在の新古典派経済学では、マクロの経済事象もミクロの長期にわたる最適化行動から導くことが主流となっている。この手法を用いて、富者・貧者や先進国・後進国の経済成長の違いを研究している。 資本量の異なる、あるいは種類の異なる資本財を生産している二つの国、あるいは二つの地域において、資本蓄積経路や総効用がどう変わるかなどが課題である。これは、例えば津市と鈴鹿市、松阪市、伊勢市では発展している産業が異なるが、これを資本財の違いと捉えると、それぞれの地域の経済発展のあり方がどのように異なるかの理論研究ともいえる。

### 3 平成27年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テーマ	概要	講師	備考
1	落語に学ぶ心理学	落語に題材をとりながら、心理学的なテーマをパワーポイントなどを用いてお話しします。テーマとしては、記憶、親子、男女があります。この中から1つのテーマをお選びください。	学長 東福寺一郎	
2	男女共存社会のすすめ	「共存社会」とは相手の存在を否定することなく、互いにそれぞれが望む生き方を受けとめ、その実現に向けて支えあう、少なくとも邪魔をしない社会であると考えます。 男女共同参画もその根底において「共存」の感覚が必要です。	学長 東福寺一郎	
3	心理学ミニ実験	心理学というとカウンセリングなどを真っ先に思い浮かべる方が多いですが、実際には様々な実験が行われています。この講座では、簡単な実験を経験することを通して、心理学をより身近に感じていただくことをねらいとしています。実験テーマは条件等を勘案して決めます。	学長 東福寺一郎	高校生 向け
4	地方分権改革と地方自治	地域住民にとっても重要な「地方自治」のあり方を、近年実施されてきた地方分権改革の動向と絡めて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
5	生活保障のための政治行政システム	本来、政治や行政は、国民の社会生活を支えるためにありますが、近年、その不十分さが指摘されています。 「生活保障」という言葉をもとに、国民生活を支えるための政治行政のビジョンについて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
6	政治とは何か、行政とは何か	「政治」や「行政」とは何か、まずは政治学・行政学の立場から基本のお話をし、そのうえで、日本など各国が抱えている主な課題をとりあげ、将来社会について考えます。	法経科 教授 立石芳夫	高校生 向け
7	外国人との共生について	入管法など外国人の法的地位に関する法制度を解説し、外国人の生活実態調査から見えてくることを通して、外国人との共生の在り方を考えます。	法経科 教授 楠本孝	
8	裁判員制度について	裁判員制度の概要を解説し、その問題点を検証します。 より良い制度にするために、どんな改善点があるかを一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	高校生も 対応可
9	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？ 犯罪統計を基に検証します。	法経科 教授 楠本孝	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
10	「憲法」ってどんな法？	<p>社会の授業ではよく目にしても、日常生活を送る中でなかなか身近に感じる事ができない「憲法」。</p> <p>でも、「憲法」は、私たちが「人間として」生存していくために重要な役割を果たしているのです。</p> <p>具体例を通じて、考察します。</p>	<p>法経科 教授 三宅裕一郎</p>	<p>高校生も 対応可</p>
11	憲法 9 条の現実的な意義	<p>「平和主義」を否定する人はほとんどいないと思います。</p> <p>また、どこかが攻めてきたときのための「必要最小限度の実力」の準備も大方の偽らざる本音だと思います。</p> <p>この2つの視点から、現代における憲法 9 条の意義について考察します。</p>	<p>法経科 教授 三宅裕一郎</p>	<p>高校生も 対応可</p>
12	「憲法改正」について考える	<p>日本国憲法が制定されて 68 年。「古くて時代に適合しなくなった憲法は変えるべき」という声もよく聞きます。</p> <p>でも、1 度も「憲法改正」が行われなかったのはなぜなのでしょう？</p> <p>「憲法改正」ということの真の意味について考察します。</p>	<p>法経科 教授 三宅裕一郎</p>	<p>高校生も 対応可</p>
13	信託制度	<p>信託という言葉は、信託銀行や投資信託というような形で耳にすることがあるかと思います。</p> <p>近年、信託法が改正され、ますますその重要度は高まっている状況です。</p> <p>信託法の基礎的理解を目的に、信託関連の事件等を踏まえ信託制度の説明紹介をいたします。</p>	<p>法経科 教授 富田 仁</p>	
14	不法行為制度	<p>不法行為制度は、日常生活において大変重要な制度です。この制度は権利や利益を侵害された被害者の保護を目的としております。具体的には、医療過誤、名誉棄損、景観侵害、等の事件において適用されています。</p> <p>不法行為制度とはどのようなものかといった視点から、実際の事件を紹介し、説明をしたいと思います。</p>	<p>法経科 教授 富田 仁</p>	
15	民法第 3 条第 1 項の「出生」について	<p>人が物を売ったり買ったり、また財産を相続する場合などには、権利能力といったものがなければなりません。しかし、民法第 3 条第 1 項では、人は出生によりこの権利能力を取得すると規定されています。この規定に従うと未だ生まれてない胎児は、この権利能力を持ってないということになります。</p> <p>民法上胎児はどのような扱いをうけているのか、事例を挙げながら考えます。</p>	<p>法経科 教授 富田 仁</p>	<p>高校生 向け</p>
16	ワーク・ライフ・バランスと労働法の役割	<p>近年、ワーク・ライフ・バランスという言葉がよくみられますが、その中身を確認し、ワーク・ライフ・バランスの実現に労働法が果たす役割を法制度などを通じ紹介しつつ、ワーク・ライフ・バランスのあり方を考えます。</p>	<p>法経科 准教授 山川和義</p>	<p>高校生も 対応可</p>

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
17	職場でのハラスメントと法	働いているとセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントなどのハラスメントが行われることがあります。 職場でのハラスメントをなくすにはどうしたらよいか、ハラスメントに対する法的処理を紹介しながら考えます。	法経科 准教授 山川和義	高校生も 対応可
18	行政判例に見るまちづくり	土地区画整理事業計画や市街地再開発計画など、私たちの住んでいる街にはいろいろなまちづくりに関する行政計画があります。 これらの計画はどのような法的性質を持ち、どのように裁判の場で争われているか。これまでの裁判例を素材に、考えます。	法経科 准教授 藤枝律子	
19	こどものための条例	こどもの権利条約を1994年に日本が批准してから、幾つかの自治体ではそれを実効性あるものにするために子どもの権利条例づくりをしています。 条例づくりから見えてくる、今の子どもたちが置かれている状況、地域の取り組み等を考えます。	法経科 准教授 藤枝律子	
20	六法を引いてみよう。法律用語の基礎知識を身につけよう	難しい文章ばかり並んでいて近寄り難い六法ですが、引いてみると、思わぬ発見があったりするものです。 六法はどうやって引くのか、そこにある法律はどのような構成になっているのか等を、実際に六法を引くという体験から学びます。	法経科 准教授 藤枝律子	高校生 向け
21	消費税をどうするか	今後とも増大する社会保障の財源をどう確保するか、大量の赤字国債に支えられた日本の財政をどう再建するか、その財源として消費税増税がテーマになっています。 消費税の特徴や問題点について考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	高校生も 対応可
22	自治体財政の健全性をどう確保するか	地方財政健全化法が成立し、財政健全化を測る健全化判断比率も整備されました。 しかし、それらの比率が要求する基準をクリアすることが、即、健全な財政という訳ではありません。 三重県の市町を材料に、財政の持続可能性、健全性を考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	
23	女性と税金・社会保障	現在の日本では共稼ぎの夫婦が一般的になってきました。しかし、税制や社会保障制度は相変わらず専業主婦モデルを前提にしています。配偶者控除、103万円(130万円)の壁、第3号被保険者、遺族年金など女性に関わる税制や社会保障制度の問題について考えます。	法経科 教授 雨宮照雄	高校生も 対応可
24	伊勢商人の歴史	伊勢の各地から江戸へ進出した伊勢商人の経営は、江戸の商業史を語る時の中心です。伊勢の地域にとっても伊勢商人の存在はいろいろな回路を通じて地域性を作り出してきました。 伊勢商人の歴史を語る時、どこに注目すべきなのかを考えます。	法経科 教授 茂木陽一	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
25	命をめぐる近代三重県の歴史	江戸期以来の風習である堕胎・マビキ慣行が近代社会の中でどのように存続しているのでしょうか。 死産や妊産婦死亡と闘った近代産婆は、教員・看護婦と並んで働く女性の典型でもありました。 産まれてくる命、産まれなかった命をめぐる近代三重の女性がいかなる変動をくり抜けてきたのかを考えます。	法経科 教授 茂木陽一	
26	東海大一揆の記憶	明治9年の東海大一揆は、減租の詔勅を引きだし、その後の日本社会の枠組みを方向付けることになった日本史上最大の一揆でした。 しかし、なぜ、地元の三重県でこの一揆の意義が語り継がれ顕彰されることがないのか、一方で「竹槍でドンと突き出す二分五厘」のイメージは架空のものなのに全国に浸透しています。 そのイメージを作り出してきたのは誰か。記憶をめぐる歴史を振り返ります。	法経科 教授 茂木陽一	
27	ささらと部落	戦前の融和運動の中心人物、三好伊平次は三重県の押田と籾の関係に注目していました。 彼の名著『同和問題の歴史的研究』に則しながら、「えた」身分だけではない、「ささら」身分の活動をみることで三重県の部落成立の歴史に迫ります。	法経科 教授 茂木陽一	
28	胎児をめぐる生命倫理	人工妊娠中絶は女性の権利なのか、殺人なのか、母親の権利と胎児の生命に関わる議論と問題状況を概観し、M. トゥーリーの論理を追いながら、人間とは何か？という生命倫理学の問いかけを考えます。	法経科 教授 茂木陽一	高校生向け
29	江戸時代の百姓は米を食べていたのか？	仮説実験授業の名著である板倉聖宣『歴史の見方・考え方』に則して、「江戸時代の農民は米を食べていたのか？」という疑問に答えながら、私たちにしみ込んだ歴史の見方、パラダイムの転換の可能性を考えていきます。	法経科 教授 茂木陽一	高校生向け
30	フェアトレードの挑戦	貧困解決の新しい手法として近年日本でも注目を浴びつつあるフェアトレードを、世界の貧困の現状の解説を交えながら、身近な商品であるコーヒーを題材に紹介します。	法経科 教授 石原洋介	高校生も対応可
31	FTA とは何か	EPP や FTA など地域貿易協定の話題を新聞やニュースで見かけることが多くなりました。これらはそもそも何なのか、日本の経済や人々の暮らしとどのような関係があるのかを解説します。	法経科 教授 石原洋介	
32	「働き方・働かされ方」について考える	過労死、ワーキングプアをはじめとし、働くことに関して暗い話が多くあります。今日の働き方・働かせ方の状況はどのようになっており、その原因はどこにあるのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
33	人間らしく働くこととは	1999年、ILOはディーセント・ワーク(人間らしく働く)を活動目標にしました。 「人間らしく働く」とは、どのようなことなのか、どのように現状を変えていったらよいのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
34	決算書の読み方(基本)	決算書は財務諸表と呼ばれ、貸借対照表や損益計算書などを指します。 本講義では、企業の公表する決算書の読み方の基本をお話します。	法経科 准教授 田中里美	
35	経営分析—企業の財務諸表を使って(応用)	財務諸表を分析することで企業の状態を把握することができます。本講義では、財務諸表を実際に分析し、企業の状態を読みとります。	法経科 准教授 田中里美	
36	公認会計士のお仕事と会計監査	公認会計士は証券市場に上場する企業の財務諸表を監査しています。さらに、公正な証券市場の運営のために、財務諸表を監査し、投資家に適正な情報を提供しています。本講義では、公認会計士監査についてお話します。	法経科 准教授 田中里美	高校生向け
37	マルクスと現代経済学	マルクス経済学と近代経済学は対立するものと通常思われています。しかし、両者は別段対立するものではありません。現代経済学の観点からマルクス経済学をどう観ることができるかを考えます。	法経科 准教授 金江 亮	
38	景気を良くするには	現在、アベノミクスを巡って経済学者の中でも対立があります。金融政策、財政政策の初歩についてお話します。	法経科 准教授 金江 亮	
39	数学と経済学	高校数学における最大値・最小値問題は、大学数学ではラグランジュ乗数法で一般的に扱われます。それは、経済学的な意味もあるということをお話しします。	法経科 准教授 金江 亮	高校生も可
40	時代小説は庶民をどう描いているか	山本周五郎、藤沢周平、宇江佐真理らの作品に描かれた庶民の感情を探ります。 時代小説が作り出した「江戸」の風景は、いわば現代の私たちの遙かなる故郷であり、理想郷です。その意味をさまざまな作品とともに考えます。	法経科 教授 竹添敦子	※平成27年 10月1日 から
41	文学に描かれた私たちの町	三重県は多くの文学作品の舞台になっています。実際の作品(例えば、三浦しをん「神去」シリーズ)を取りあげて、自分たちの町を文学作品から眺めてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	※平成27年 10月1日 から
42	昔ばなしを比べてみよう	日本の昔ばなしと西欧の昔ばなし。似ているような、似ていないような……。それぞれの文化遺産としての昔ばなしを比べてみましょう。	法経科 教授 竹添敦子	※平成27年 10月1日 から ※高校生 向け

No	テーマ	概要	講師	備考
43	イギリスの文学や 絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	法経科 教授 村井美代子	
44	「赤毛のアン」を 読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事もち、結婚し、母になるアンの姿が描かれます。 女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	法経科 教授 村井美代子	
45	歌を通して英詩に 親しむ	幼い頃に親しんだ歌の中には、百年以上前にイギリスやアメリカで生まれたものや、原詩が日本の歌詞と全く違うものがあります。 メロディになじみのある英語の歌を通して、歌が成立した背景や、英詩のリズム、韻律に触れます。	法経科 教授 村井美代子	高校生 向け
46	食べ物とがんにつ いて	がんの主な原因は喫煙と食習慣で、ともに約30%ずつを占めると言われています。 日常の食事が、がんの発生と予防の両面においてどのように関連しているかを科学的な根拠に基づいて解説します。	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
47	「健康食品」を考え る	さまざまな効果をうたった健康食品の情報が、連日、メディアなどから大量に流されています。しかし、実際にはほとんど効果がないものや、却って健康を損ねる恐れもあります。 “体によい”食品の情報を整理し、上手なつきあい方を提案します。	生活科学科 教授 伊藤貴美子	
48	ω-3脂肪酸の話	一般にω-3脂肪酸と言われているEPA, DHA, α-リノレン酸。生活習慣病予防の予防と治療の観点からこれらの脂肪酸が注目を集めています。 意外と知られていないω-3脂肪酸の害を含めて、上手なつきあい方を解説します。	生活科学科 教授 山田徳広	
49	糖尿病と食事と運 動の話	糖尿病は怖い病気であると言われていています。それではなぜ、血糖値が上がると恐ろしいのでしょうか？筋肉運動がインスリンの代用をする事も意外と知られていません。糖尿病は上手に付き合えば、長生き出来るのです。 糖尿病の病態を説明すると共に、食事と運動を組み合わせた糖尿病との付き合い方を提案します。	生活科学科 教授 山田徳広	
50	食べ物の中の酵素 の話	“酵素”って良く聞きますよね。では、酵素とは何かを知っている人がどれ程いるのでしょうか？肉を柔らかくしたり、リンゴの色を悪くする食品中の様々な酵素について解説します。意外と知られていないメロンアレルギーの元凶もある種の酵素です。	生活科学科 教授 山田徳広	



No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
51	メタボリックシン ドロームの現状と 食生活による予防	メタボリックシンドロームはなぜいけないのか？ 体の中で行われる代謝の仕組みから考え、食生活による予防を目指します。 ワークショップを取り入れ、自分自身で実行可能な行動目標を立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	
52	食事をバランスよ く食べよう！	バランスよく食べるためにはどうしたらいいのか？ 食事バランスガイドを使って、自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。 料理カードを使い、自分自身でバランスのよい献立を組み立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	
53	栄養士・管理栄養士 とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学専攻の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	生活科学科 准教授 阿部稚里	高校生 向け
54	特定健診(メタボ健 診)受診のすすめと 津市の健康課題	平成 20 年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。 津市では毎年約 18,000 名の方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
55	海外での栄養士活 動	途上国で青年海外協力隊の栄養士として過ごした 2 年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
56	三重県の食状況に ついて	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施されてきた県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国と比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、一緒に考えたいと思います。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
57	健康づくりのため の家庭料理を学ば う	近年では、家庭での行事食提供機会の減少、核家族化、食の多様化などにより、地域特有の家庭に伝わる料理が急速に失われつつあります。 地元の食材を用いた料理レシピ紹介や健康づくりのための調理実習などを通して「食の伝承」について考えます。	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
58	食物からの DNA 抽出実験	身近な食材から DNA を抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましょう。(所要時間によってはパワーポイントスライドを併用し実験操作を短縮する場合があります。)	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
59	食べ方の科学	「同じものを食べても、その食べ方(時間や順番)で体への影響は違ってくる？」データから読み解き、よりよい食べ方を一緒に考えます。	生活科学科 助教 米田武志	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
60	おいしさの科学	食品を食べたときに、その味や香りからおいしい、おいしくない、の判断を脳が行います。食べ物を口に入れてから、頭の中で起こっていることについて紹介します。	生活科学科 助教 米田武志	
61	地域の医療や福祉のことを考える	年金や医療保険のことをはじめとして、何となく知っているけれど詳しくは分からないという社会保障について一緒に考えてみませんか？	生活科学科 教授 長友薫輝	※平成 27 年 9 月 30 日 まで
62	働く前に知っておきたい社会保障のこと	アルバイトなど「働く」ということを通して社会に出る、その前に知っておきたい社会保障のことを考えてみませんか？ この社会で生活する上で知っておいて損はないことばかりです。	生活科学科 教授 長友薫輝	※平成 27 年 9 月 30 日 まで ※高校生 向け
63	障がい者って誰のこと？	普段何気なく使う「障がい者」とは、一体誰のことを指すのか。 視力が悪く、コンタクトを使っている人は障がい者だろうか？「障がい者」とは？ということを確認していく作業を通して、「障がい」とは何なのか、自分が暮らす社会に存在する、障がいを持つ人を支える仕組みについて考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	
64	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもといたり、実際の制度を紹介したりしながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	
65	病院で「もうすぐ、退院です」と言われる前に、何をすべきか？	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
66	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生 向け
67	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要さや深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
68	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
69	住民参加とコミュニティ	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代にその必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業を事例に、コミュニティ形成などに向けた住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 准教授 小野寺一成	
70	都市計画とまちづくり	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を説明しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。	生活科学科 准教授 小野寺一成	
71	まちづくりと景観計画	全国各地で景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としての景観計画について紹介します。	生活科学科 准教授 小野寺一成	
72	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
73	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
74	インターネットの仕組みを学ぶ	インターネットでは、どのような仕組みで、Web ページを公開・閲覧したり、メールが送受信したりしているのかを紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	
75	言語を対象とした情報サービスを活用しよう	世の中には、言語を対象とした情報サービスがたくさんあります。それらを有効に活用することで、より快適で楽しい生活をおくれることを紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	
76	統計的な分析を日常で活用しよう	最近、大規模なデータ（ビッグデータ）を統計的に解析する仕組みが確立されています。言語データを中心に、大規模データを分析する仕組みを紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	

**2015年度(平成27年度)**  
**三重短期大学地域連携センター年報**  
平成28年12月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター  
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地  
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647  
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp